

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	個人の尊厳を重視した理念であり、その人らしく暮らし続けることを支援できるように誰にでも(新人の職員や家族等)理解できるようなシンプルな理念になっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	介護従業員には日々の介護の基本的な考え方として常に念頭に置きながら仕事に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族の方々には、訪問された時や、家族会、旅行等のそれぞれの機会毎に理念の実践をお話している。地域では集まりや行事に利用者と共に積極的に参加し、又隣組のつきあいをいりその都度ホームの運営理念等の啓発・広報に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	もともと農家だったので違和感はない。玄関や裏口は常に開放し、又わかりやすい表札もあり誰でも気軽に出入りできるので、近所の方が野菜を届けてくれたり、お茶を飲みに来訪したりしている。		11月より施設が引っ越しをした為、新たな隣近所との付き合いの構築が必要になってきた。隣組等の挨拶は終わっているが、今までの農家と違い、ご近所もサラリーマンの家がほとんどなので、日常的な付き合い方の工夫が必要になってきた。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会、老人会等に参加し交流を行っている。入居者や小規模多機能型居宅介護の利用者の方にも地元の方が多くおり、自然な交流が出来ている。		上記と同様で、新たな地元との交流に努めて行く。但し、引っ越しの前から自治会長や役員の方々とは交流しており、又職員にも自治会の人がいるので、交流の機会は作れると思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所のサービスが地域に密着した小規模多機能型のサービスなので、地域の方を最後まで地域で暮らす事が出来るように支援できる。既に、家庭や利用者の方の問題で自宅での生活が困難になったときの'駆け込み寺'のような位置づけになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	既に2回の外部評価を経験し、改善すべき事は改善に取り組んできている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3回行ってきているが、サービスの実際や評価への取り組み状況等の報告により、内容の理解への取り組みとしては役だっていると思うが、まだ改善等の意見が少ないのでサービス向上につなげていくまでに至っていない。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームや小規模多機能型居宅介護の先駆者的存在で市町村の広域からよく相談を受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を県内でも一番に利用し、現在も成年後見人制度利用者が2名、権利擁護利用者が2名いる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないものと定義しており、事業所内でもしそのような事があれば、即刻解雇するよう就業規則に明記してある。又、事業所全体として、ケアマネ等が地域等で虐待等の問題があったときには行政に相談の上対処している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書にわかりやすい言葉で示し、契約の際に説明し同意を得ている。又重要事項に盛り込み契約の際に説明し同意を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の会話の中で、利用者は自由に意見、不満、苦情が言えるようになってきている。改めて機会を設ける必要性は感じていない。利用者の方々の個々のニーズに応じて運営して行くのが当然の姿とと思っているので、この質問自体がおかしいと思う。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日の介護記録を週報に記入しており、毎月の利用料請求の時にこの記録を送っている。又、週報では記録が煩雑なのでカバレーターとして、1ヶ月分の介護サマリーを添付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に1回の家族会総会や年に2回の旅行の時に家族の方の参加をお願いし、意見の交換を密に行うようにしている。又、運営推進会議でも同様。又、利用者の方への面会の際には必ず意見の交換をしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月26日に職員会議を行い、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者個々の状態に応じ柔軟な勤務調整に努めている。この調整により、職員の過度な残業等も行わないよう、又必要な職員数の確保にも努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本賃金の値上げや夜勤手当の値上げ等も行い、職員の定着率の向上に努めている。この成果で、離職は激減している。又、事業所全体として、利用者へのかかわりが出来ているので、異動や離職等での利用者へのダメージはほとんどない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>OJT用の研修マニュアルを用意し、チーフ及びサブチーフが個々の新人の指導に当たっている。又、年間を通して研修計画をたてており、職員の段階に応じ社会福祉協議会の外部研修を中心にその段階に適した研修に参加している。又介護技術に関しては別途看護師及び経験のある介護福祉士より実技指導も行われている。</p>	<p>引越越しにより内部の仕事の配分等が変わった為マニュアル類の変更を行っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの先駆者として、同業者へは広く情報を提供し地域の同業者同士で質の向上を図れるよう努めている。又、グループホーム協議会の一員として研修や交流会等に参加し相互訪問や情報交換によりサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の親睦会や他グループホームとの交流会、福利厚生施設の充実(スポーツクラブ、ワークメイトの会員)によりストレスの解消に努めている。又精神的に悩み等かかえた場合は主治医にカウンセリングをお願いしている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>常に勤務状況を把握し、昇給や賞与等にも反映し、意欲の向上にも繋げている。又ヘルパー2級研修の実習先として実習生を受入しており、職員が指導員として実習生の指導を通じ自らの技術や意識の再確認もでき、自らの意識向上に繋げている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者と計画作成担当や介護職のリーダーが相談に応じ、利用者本人からも十分に話を聞き受け止めている。又利用者本人は認知症があるので、計画作成担当者はバリデーションワーカーの資格ももち話を受けとめる十分な知識と経験をそなえている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>前記と同様、受入の前から管理者及び計画作成担当、介護職リーダーが利用者と共に家族の相談に応じ、よく話を聴く機会を作っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のサービスが地域に密着した小規模多機能型のサービスなので、本人と家族のニーズに合ったサービスを見極め提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その利用者本人の状態に応じ、サービスの利用開始についても工夫している。前記にも記したが小規模多機能なサービスがあり、本人が安心、納得できるようサービスの移行が可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人の状態に応じ、できる事はやって頂き、生活を共にしている環境を作っている。又職員と本人との支え合いの関係だけでなく、地域に密着した利用者同士の支え合いの関係も築かれている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会等に限らず家族はいつでも訪問して頂ける環境があり、旅行や外出等にも機会を設け家族が自由に参加して頂いている。旅行等では家族も共に楽しんでおり、一緒に本人を支えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係の理解には受入れ当初より取り組み、個々の家族毎にその関係の継続や回復等にもご家族のニーズに応じ、取り組んでいる。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の利用者の状態や、受入環境に応じ対応している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わり合いはとても大切にしており、良い関係が築ける環境作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ターミナルケアも実施しており、利用者やその家族との関わりは継続している。一つの例として、以前に亡くなられた利用者の家族の方が当事業所の旅行のボランティアとして参加して下さっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症ケアの基本として、一人一人の思いや意向を大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々にアセスメントし努力している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	上記と同じ		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本介護計画を毎月の職員会議や部会で見直しをおこない、必要に応じ家族とも連絡を取り合って介護計画の見直しを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記と同じ		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を週報の形で記入しファイルしており、この記録を共有している。又、日々の気づきは申し送り等にも記録して情報の共有化をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が小規模多機能型のサービスの提供をしており、柔軟な支援を実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個々の利用者の状態や、受入環境に応じ対応している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャー会議等を通し、他のケアマネと連携し支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	前にも記したが、包括支援センターや社会福祉協議会等と協働し、権利擁護等の利用に取り組んでいる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を構築し、利用者のターミナルケアも実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医が認知症の専門医であり、平成11年のグループホーム開所当初より利用者の診断や治療をお願いしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に訪問看護があり、利用者の健康管理等看護職と密接に連携している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院から退院まで、家族と共に医療機関に出向き、情報交換や相談に努めていた。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の段階から、終末期の対応について希望の記入をして頂いている。又、毎年の家族会でその対応の再確認を行い、ターミナル期には必要の都度家族と話し合っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	前記同様、以前からターミナルケアを実施しており、かかりつけ医と看護師と共にチームケアで取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	個々の利用者の状態や、受入環境に応じ対応している。		住み替えの前例が少なく、家族及び関係者との十分な情報交換に努めていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>事業所の理念に利用者の方に尊敬と敬意を持って介護する。とうたっているように、一人一人の方の誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が自由に生活できる施設を目指している為、自己決定を尊重している。例えば徘徊したい時は自由に徘徊できるし、たばこや酒も家族や本人が望めば自由に利用できるようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人が生きてきた経歴を探り、生活の中や話の中に盛り込みその人らしく暮らして頂いている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容院、理容院に出掛け本人希望の髪型にしてもらっている。 服装は家族が持つてくる人はその中から、買う場合は本人同伴で出掛けるようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者のできる範囲で準備等には参加している。又片づけについては、利用者の個々の状態に応じ対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>前記51にも記したが、たばこや酒も家族や本人が望めば自由に利用できるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄時間を記入する表を使いパターンを把握してその方に合わせた排泄支援を行っている。又、おむつに着いても個々の排泄に合わせたものを使用している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望のある利用者の入浴は、できる限りその希望どおりにできるように努力している。</p>		<p>楽しく入浴ができるよう、以前は日帰り温泉等に出かけていたが、最近では利用者の重度化が進みその取り組みができていない。利用者のニーズにあわせ又、その取り組みを復活させてゆきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>基本的には本人任せで寝たいときに眠り、起きたいときに起きるようにしており、就寝時間等も自由にしているが、6時間以上の睡眠が確保されるように日中の活動を大切にし昼夜の逆転が起きないように生活リズムを作っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>犬の散歩、新聞とり、掃除、犬猫のえさやり、洗濯物たたみ、食器洗い・片づけ、湯飲み洗い・片づけ等生活の中で行う事を役割として持っていて、支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者は認知症の方々なので、被害妄想等にもつながるので、基本的にはお金を持ち込まないようお願いしている。週に1回の買い物日を設けており、買い物に参加した時には、利用者の希望に応じお小遣いを持っていて、買い物が出来るようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>建物の戸外には自由に出入りできるようにし、安全の確保に努めている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している</p>	<p>年に2回の1泊旅行や、季節の時々花見等の外出の機会を設けている。家族も積極的に参加できるよう支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、家族からのニーズが余りないが、以前は利用者の方で個室に電話を引いて欲しいとの要望があり、海外からの電話が受けられるように支援した。		利用者の重度化が進みその取り組みができていないが、利用者によっては、まだできる可能性があり、今後手紙のやりとり等の支援に取り組んでいきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に入出入りできるよう支援し、訪問の際には実家として位置づけ居心地のよい環境を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	就業規則にも拘束禁止をうたっており、身体拘束を行った場合は解雇である。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個室にもホーム全体にも鍵をかけることを禁じ自由に出入り(徘徊を含む)出来る環境にあり、身体拘束は厳禁であり、当施設に拘束という文字はない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	最も基本的なケアとして実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ミシンや裁縫道具、お茶会の道具、鋤きくわ等民具は沢山おいてある。状況に応じ利用者が掃除をしたり、草刈りをしたり、編み物をしたりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	社会福祉協議会の研修や消防署の研修等で安全管理や救命救急等の知識を身につけ、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に避難訓練等を行い、又看護師や救命救急の研修に出た者から応急手当等の指導を受けている。又、緊急マニュアルにより全職員に周知徹底できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前記と同様定期的に避難訓練等を行い、災害対策マニュアルにより全職員に避難等周知徹底している。地域の人々の協力は10月までは万全であったが、11月に引っ越しをしたので、協力体制の構築はこれからの対策となっている。		引っ越しにより、地域との関係の構築をし、協力を得られるようにして行く。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人利用者に応じたリスク管理をしており、家族にも協力体制をお願いしている。又、出入り口は自由に出入りできるようにしており、抑圧感のない暮らしを確保している。徘徊等には常に注意を払っているが、一人ご家族の協力のもとGPSによる監視をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェックや着替え、入浴時の体のチェック、普段の様子等観察し、記録を残している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に当日の投薬の担当者を決め指示どおりに服薬できるように支援している。又薬の目的や副作用、用法、用量等は投薬置き場に掲示し職員が承知できるようにしている。又薬の変更等あった時には朝礼にて連絡があり、職員全員に周知徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録表と介護記録(週報)により、常に最終排便を把握し便秘の予防に努めている。又個々の利用者の方の体調により、看護師の指示の元、飲食物等の工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前のうがいと、食後の口腔ケアを実施している。また、歯科医師により月1回の口腔ケアの指導もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、お茶等の摂取状況を記録し、水分量の把握に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いは励行しているが、散歩で体力維持と日光浴で感染症予防をしている。又、インフルエンザの予防接種は毎年利用者、職員共に行っている。肝炎の感染対策は血液にふれる可能性のある時はナースグローブをしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や食材庫等は専任の担当が万全な管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	新社屋では1階の部屋の周りに濡れ縁をつくり、昼には皆で日向ぼっこやお茶のみなどをできるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は広々として、テレビの见たい人、静かな場所にいたい人、ゲームをしたい人等好きな場所で過ごせるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記と同じ		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は約6畳の部屋で、広々として使い慣れた寝具や家具等を自由に持ち込んで頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や湿度の保持等には十分注意を払っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前記にもあるが、建物内部はバリアフリーで、共有部分には手すりをつけ、自由に歩けるように配慮している。又2階への移動にはエレベーターもあるが、人によっては自由に階段を上り下りしていただいている。階段の昇降口にはあえて囲い等はしていない。囲いがあると人は却ってその先に足を踏み入れなくなり、事故につながるケースがあると思う。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室がわかるようドアにシンボルの飾りをしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階は濡れ縁を張り巡らし、日当たりの良い時間帯等に応じ、濡れ縁で日向ぼっこを楽しんでいる。また玄関先等に喫煙所も設け喫煙者は自由に喫煙出来るようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小規模多機能型のグループホームとして、一人一人の状態に則してサービスを選択し、提供している。地域で最後まで生活できるよう訪問介護やデイサービスからスタートし、その状態及びニーズに合わせサービスをする事により馴染みの関係を維持しながら最後はグループホームでの生活を提供している。又、職員は利用者の方々を家族と同じ思いで受入れ、接している。月に1度の外食や年に2回の旅行等家族ならするだろうという事もしている。

さらに、ターミナルケアも実践しており、協力医療機関と連携をとり一人一人の状態を把握し、情報を共有しながらチームの一員となって利用者を最後まで支えています。